

あいむ柏崎

ひとひと
— 女と男 共につくる希望の未来 —

令和7(2025)年3月5日

第12号

発行 | かしわざき
男女共同参画推進市民会議

寄稿

「第二子の育児休業体験記」

柏陽鋼機株式会社 CAD管理課 課長 星野 拓人 さん



2024年に第二子となる次女が誕生し、2カ月間育児休業を取得しました。第一子の時は妻の実家でお世話になりましたので、私は育児休業を取得しませんでした。第二子は自宅で一緒に育児をしたいと思い妻と相談していたところ、母子手帳の発行手続きのため妻と元気館を訪れた際に、男性の育児休業について説明を受けました。柏崎市が男性の育児休業について奨励金を交付していること、各種方面の相談対応をしてくれる環境があることなどを教えていただき、それが今回の育児休業取得の後押しとなりました。実際に産後パパ育休と育児休業制度をどう利用するかなど柏崎市の窓口で相談し、大変参考になりました。

育児休業を取得するにあたり、会社には早い段階で相談し、理解を求めました。自分が抜けた後の仕事をどう引き継ぐのかなど課題はありましたが、一つ一つ周囲に相談し理解を求めることで、無事に育児休業を取ることができました。“育児休業を取りたいけど職場のことを考えると迷惑を掛けて取りにくい”と思う気持ちもあるかと思いますが、まずは会社や上司など周囲に相談してみてください。皆さん立場や状況に違いはあると思いますが、しっかりと準備することで周りは応援してくれると思います。

今回の育児休業取得でよかったなと感じたことは、長女と母親の時間を持たせてあげられたことです。新生児の育児に注力してしまうことで長女の気持ちが不安にならないように、可能な範囲で母親と二人の時間を作ることを心掛けました。保育園から帰宅したときには今日の出来事を話したり、朝の着替えで何を着るかなど、出産前と変わらない親子の過ごし方ができました。そのため、長女は赤ちゃん返りも少なく、妹の面倒を進んでしてくれる立派な優しいお姉ちゃんになりました。子どもの気持ちが安定していたことで親も安心して育児をすることができたと感じています。

最後に、子の成長を間近で見守れることは夫婦のかけがえない大切な時間です。また、産後の精神的に不安定な時期に、妻の相談相手になれるのは一番身近な存在の夫だと実感しています。しっかりとお互いに向き合って話し合うことで、夫婦ともに気持ちが楽になると思います。今は育児休業を分割して取得することもできますので、夫婦で相談して計画的に取得してほしいと思います。子育て世代が家族との大切な時間を過ごせるように、周りも理解し応援してくれる環境になってほしいと願っております。



星野さん御一家